

Ant

反天皇制運動

0

号

[通巻 382 号]

2016 年
6 月 7 日発行

第X期・反天皇制運動連絡会

とうとう、X期をスタートさせる時間に入ってしまった。平成天皇制のXデー状況とXデーと闘う。これがこの期の軸である。「反天連」は昭和天皇Xデー及びXデー状況に抗するという運動課題をかかげて結成された運動体である。30年以上の運動の持続があり、まさか天皇Xデー闘争を、もう一回体験するなどということはまったくの想定外であった（特にこんな病体のままで）。

この間、私たちの「読書会」のテキストに、私の『マスコミじかけの天皇制』（1990年・インパクト出版会）が使われた。それは新聞・週刊誌・TV・雑誌に洪水のごとくあふれた「皇室情報」の中を私自身が独力で泳ぎきった記録である。読みなおして気がついた。

私たちは「代替わり」のスタートの時点で、平成天皇制（アキヒトミチコ天皇制）は、ずいぶん遅れてやってきた象徴天皇制の、かなりスマートな（平和憲法にマッチしたという意味での）完成形態であることに、それなりに自覚的であった。

いいかえれば、今、天皇主義右翼安倍政権に抗する様々なテーマの政治的・社会的運動の中に、アベの暴走に不快感を表明しているアキヒト天皇一族の「護憲＝平和発言」への期待を口にする人が少なくないという、とんでもなく倒錯した事態がうまれる必然性。これを、いち早く予感しながら、反天皇制運動を持続してきたのである。〈護憲・平和イデオロギー〉こそが象徴天皇制のナショナリズム（国民の一体感づくり）の中心軸なのだ。「即位」の時点の「護憲」発言に、期待をにじませた、戦後民主主義派知識人の登場と、それとの論戦。この記録に、その点は象徴されていた。そう、私たちは〈象徴天皇制デモクラシー〉の内在的批判を課題として突きだし、個人の自己決定権を奪還する相互主体的な活動としての〈民主主義〉を〈象徴天皇制デモクラシー〉に対置して闘い続けてきたのだ。そして、戦後憲法との関係でいえば、国家（天皇）のごとく戦争（軍隊）を前提にする「平和」などではなく、9条の理念通りの〈絶対平和主義〉理念の積極性を、この点はまともな9条護憲派より、ずいぶん遅れて発見し、右翼の公然たる暴力の日常化の中で〈非暴力直接行動〉をしゃにむにつみあげてきたのである。中心にかかげ続けた政治テーマは〈天皇制の植民地支配・戦争責任・戦後責任を問いつける〉であった。この長い長い自分たちの象徴天皇制批判の、〈運動体験〉を、次のXデー状況に抗する運動の中で、あらためてはじめてXデーを経験する世代とともに、どう〈思想化＝運動化〉するか。これに自覚的であり続けたい。（天野恵一）

第X期反天皇制運動連絡会への呼びかけ——*2
野次馬日誌——*4
集会の真相——*7
集会情報——*7
神田川——*8



50 円

●定期購読をお願いします（送料共年間4000円）

●郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス

東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A 淡路町事務所気付 落合ボックス

TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://hanten-2.blogspot.jp/> mail: hanten@ten-no.net

反天皇制運動連絡会 第X期への呼びかけ（二〇一六年六月）

第二期以降、三年ごとにいったん解散・再結成という区切りを設けながら、IX期まで活動を重ねてきた私たち反天連は、いま第X期にむけてスタートしようとしている。反天連は、ヒロヒト「Xデー」状況との闘い、大衆的政治闘争としての反天皇制運動を目ざして、一九八四年に結成された。当時、中曽根首相が打ち出した「戦後政治の総決算」というスローガンや、「不沈空母発言」「靖国公式参拝」などに象徴されるような日米同盟の強化、新自由主義的・

新国家主義的な政治志向のもとで、民衆統合支配の装置としての天皇制の「浮上」が、運動圏においても強く意識され始めていた。その後の反天皇制運動は、私たちもその一翼を担いつつ、八九年のヒロヒト「Xデー」と新天皇の「即位・大嘗祭」反対運動の全国化・大衆化として、大きな広がりを作り出していた。

それからすでに三〇年以上もの時間が過ぎた。非自民連立政権の成立や右派勢力の巻き返し、政権交代などのジグザグを経て、いまや、解釈改憲によって集団的自衛権行使を解禁し、違憲の安保法制を強行可決し、緊急事態条項をひとつの突破口として明文改憲をすすめようとする安倍政権によって、八〇年代以来の政治方向が完成させられようとしている。

これにたいして、現在、国会前やさまざまな場所、安倍政権の強権政治に対する人びとの声、立憲主義の蹂躪を許さない運動の大きなうねりが続いている。しかし、そこに「反天皇制」ということが占める余地は、ほとんど無に等しいかのようだ。そこには、

私たち自身の主体的力量といった問題以上に、「Xデー」以後の天皇制、すなわち「アキヒト・ミチコ天皇制」というものの性格が反映しているといわなければならぬだろう。

戦後天皇制は、一貫して非政治的、平和主義的なものであるというイメージでとらえられてきた。それは、天皇の「人格賛美」を日々繰り返すマスコミによって支えられ、総じて現実政治に関わらない、戦後民主主義体制に適合的な支配のシステムとして合意されてきた。とりわけアキヒト・ミチコは、ヒロヒト時代に十分果しえなかった「開かれた皇室」、戦争責任からクリーンであり、「皇室外交」にも積極的な「国際化時代の天皇制」として登場し、さらには海外を含めた戦争被害者の「慰霊」、原発事故や自然災害の被災地を精力的に回ることによって、「祈り」と「癒し」の担い手としての顔をも前面に出していった。「宗教的」とさえいえる「無私の祈り」に励んで見せることが、人びとの間に、天皇の権威を再組織していることを無視することはできない。そういった意味において、私たちは、アキヒト・ミチコ天皇制は、象徴天皇制に期待される役割を果たすことになり成功しており、その「国民統合」のあり方は「象徴天皇制の完成形態」であると考えられている。

そのことは、現在、安倍政権に批判的な人びとの中から、アキヒト・ミチコを「リベラル」であり平和憲法秩序を大切にしていると評価し、それと比較して安倍を批判するというロジックが繰り返して登場していることにも現われているだろう。天皇主義者で

ある安倍を、実は天皇も批判していると言いたいのかもしれないが、それは政治的に演出された天皇の「無垢性」に依拠しつつ、その権威を前提とする議論ではない。

私たちはまず第一に、国家の政治的なシステムとして天皇制を考える。

三年前、第IX期の開始にあたって私たちは、「国家の機構でありながら、それとは独立して超然と存在しているかのようにふるまう象徴天皇制は、そのふるまいにおいて、文化的・平和的な場面における民衆統合の装置であり続けるだろう。……それゆえに私たちは、運動の中においてさえ繰り返し登場する『リベラルな天皇への期待』なるものをも批判していかねばならない。そしてそれは、多くは八・一五、さらには三・一一などに象徴される『追悼の政治』の場面において発動される天皇制の批判ともなるだろう。そして、第二次安倍政権の登場が「右翼的・神権主義的な天皇制の強化に繋がると考えるべきではない」と主張した（第IX期への呼びかけ）二〇一三年三月）。

それより以前、民主党政権の時代にも私たちは、むしろ「ソフト・イメージの（アキヒト・ミチコ）天皇制は……民主党政権の方にマッチしている。こちらの方こそ、私たち反天皇制運動の正面の敵ともいえよう」とも主張していた（第VIII期への呼びかけ）二〇〇九年（二月）。戦後象徴天皇制は、アメリカの占領体制のもとに、サンフランシスコ体制Ⅱ日米安保体制を軸として作りだされた戦後日本の構造の一

【設立目標】

- ① 予想される明仁天皇「Xデー」および「Xデー」状況との闘いを準備する。
- ② 「全国戦没者追悼式」や「震災追悼式」をはじめとする、マス・メディアに支えられた国家による追悼儀礼、天皇出席の国体・植樹祭・海づくり大会などの天皇儀礼、「皇室外交」や「昭和」の賛美などと持続的に対決する大衆的な反天皇制運動をつくる。
- ③ 「天皇元首化」や「日の丸・君が代」を明記し、立憲主義を否定する国家主義的な改憲策動と対決する。
- ④ 原発推進、「日米同盟」の強化、「恒常的派兵」国家化などに向かう日本政府の動きと対決し、各地の反原発・反安保・反基地運動と「連帯」しうる反天皇制運動をつくる。
- ⑤ 天皇制国家の植民地支配責任、戦争・戦後責任、「領土ナショナリズム」や差別・排外主義を撃つ闘い、治安弾圧、「日の丸・君が代」強制、オリンピックをはじめとする排除と統合のナショナルイベント、天皇制の安定継承のための皇室典範「改正」、教育の国家による統制などに抗する運動などとの豊かなネットワークづくりと、他のテーマの運動との有機的連携を作りだす運動のメディアの強化。
- ⑥ 80年代からの反天皇制運動の歴史的な体験を思想的に対象化する作業の持続。

【運営の申し合わせ】

- ① 基本方針は、定例（週1回が原則）の事務局会議で決め、会員全体に提起する。事務局会議は月1回は拡大事務局会議（会員に開かれた会議）とする。
- ② 事務局メンバーの推薦と本人の自発的意志があれば、誰でも事務局員あるいは「事務局協力者」（コンスタントに事務局会議には出られなくても「協力」の意志のあるメンバー）になれる。ただし、政治党派のメンバーは遠慮していただく。
- ③ 会員とは、主旨に賛同し、会費を納めた者である。「ニュース購読会員」（年間4000円）とより積極的な「協力会員」（年間7000円）の二種類がある。
- ④ ニュースは原則として月1回発行で、購読料は年間4000円とする。
- ⑤ 会は、大衆運動の原則にしたがって運営する。
- ⑥ 期間はとりあえず3年間とする。

部にほかならない。「国民統合の象徴」として戦後憲法に制度化された象徴天皇制にとって、戦後憲法体制に適合的な民主党政権政治のほうが、天皇制のあり方をも含めて変えていこうとしている自民党の改憲政治よりも、当然にも戦後憲法下の天皇像を積極的に演じてきたアキヒト・ミチコにとって「意に沿う」ものであっただろうという判断もあった。民主党の凋落と自民党の再登場によって、天皇制の権威化が予想されるが、本質的には政権政党の「政治利用の対象」としての天皇という役割は変わらないであろう。「天皇元首化」を掲げた自民党の改憲草案においても、天皇は依然として「象徴」であるように、けっして「統治権の総覧者」としての天皇制の復活を志向するものではない。

象徴天皇の役割は、さまざまな国家的儀礼において「国民統合の象徴」という役割を担うことであり、

国家の行為を権威づけ正統化し、「国民」の幻想的共同性を担保することである。天皇家や皇族の人間に対する無条件の絶対敬語と人格賛美は、そのまま統合された国民によって成り立つ国家の無条件の賛美にほかならない。それはまた、皇室の「私事」とされる「皇室祭祀」の祭主であることも連動して、日本の文化・伝統の体現者ともみなされることになる。

私たちは、第X期を、「次」の「Xデー」状況の開始を見すえつつ、このようなアキヒト・ミチコ天皇制の現段階をこちら側から「総括」し、国家・社会の再編にともなう天皇制の再編＝再定義の方向性をとらえ、その中から、天皇制の生み出す「現実」に対する批判と行動を持続していきたいと考える。

私たちがなすべきことは、天皇制廃絶を一般的にスローガンとして語ることはありえないし、「国民

運動」における天皇批判の不在を嘆くことでもない。私たちの運動は、「慰霊」や「皇室外交」における戦争責任・植民地責任の隠ぺい、天皇の移動などにもなつて常に起こる人権侵害や治安弾圧、「日の丸・君が代」強制、世襲の特権的身分制度にともなう差別、靖国問題や国家の宗教性、ナショナリズムと排外主義の問題など、天皇制に関わって具体的に日々起きている事象との具体的な対決をいってほかにない。それらは、反「Xデー」闘争以来の闘いを通じて、私たちも含めた反天皇制運動がつかみ取った「運動としての民主主義」に関わる課題であり、したがってそれは、さまざまな運動とのつながりと相互の協力関係なしにはなしえない。

一人でも多くの方の参加、協力、支援をお願いします。

（反天連事務局）

野々田日記

5月1日～5月31日

【5月2日】

美智子◆皇居・御所の近くにあるクヌギを網で囲んで設けた養蚕施設「野蚕室」で、「天蚕」と呼ばれる野生種のカイコの卵を枝につける「山つけ」の作業をする。

久子◆スウェーデンのカール16世グスタフ国王の70歳を祝う行事などに出席するためとして訪れていた同国から、羽田空港着の民間機で帰国。

【5月3日】

憲法◆自民党が党声明で「憲法改正の国民投票は、現実に実施できる状況にある。憲法改正原案の検討、作成を目指す。憲法は、国民自らの手で、今の日本にふさわしいものとしなければならない。わが党の主張を訴え、国民と共に議論を進める」。

／民進党の岡田克也代表が談話で「今夏の参院選は日本政治の分岐点となる。安倍政権が勝利すれば、憲法9条を改正して集団的自衛権を制限なく行使可能とするのは確実だ。憲法の根幹である平和主義を守り抜くことを国民に改めて約束する」。

／生活の党の小沢一郎・共同代表が談話で「政権が目指すのは自衛隊の海外派兵で、平和主義を覆すものだ。そのための改憲は許されない。国民の合意があれば時代や実勢に合わせて改正すべきだ」。

旧日本兵遺骨◆岸田文雄外相が、ミャン

マーの首都ネピドーでテイン・チョー大統領と会談し、日ミャンマー関係の強化を巡り意見交換。

【5月5日】

日米関係◆米大統領選で共和党候補の指名獲得を確実にした実業家トランプが、大統領に就任すれば、日米安全保障条約に基づき米軍が日本防衛のために支出している国防費の全額負担を日本に要求する考えを表明。

【5月6日】

明仁、美智子◆宮内庁が、明仁、美智子が全国植樹祭の式典臨席などのためとして、6月4～6日の日程で長野県を訪問すると発表。

「慰安婦」問題◆自民党の高村正彦・副総裁と中国の李源潮・国家副主席が5日に北京で会談した際、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界記憶遺産に「慰安婦」問題の関連資料を登録しようとする中国の動きについて、日中両政府で協議する必要があるとの認識で一致していたと、同行筋が明らかに。

【5月7日】

眞子◆東京都千代田区のヒューマントラストシネマ有楽町を訪れ、当日公開のドキュメンタリー映画「サンマとカタール女川つながる人々」を鑑賞。

【5月8日】

徳仁◆東京都千代田区の一橋大一橋講堂を訪れ、日本の登山隊によるヒマラヤのマナスル初登頂から60周年を祝うイベントに出席。

植民地支配◆北朝鮮が国営メディアを通じて、金正恩・第1書記が平壤で開催中の朝鮮労働党大会で行った活動総括報告の内容を発表。日本に対し植民地支配の謝罪を要求。「過去の罪悪（植民地支配）を反省し謝罪し、朝鮮半島の統一を妨害してはならない」。

【5月9日】

天皇、皇族◆明仁、美智子の「公務」について、宮内庁が新たな見直し策を発表。皇居で行政機関の長らと面会する機会を減らし、一部を徳仁、雅子が担うもので、山本信一郎次長「ご年齢にふさわしい公務のあり方を検討し、両陛下の了解も得ている」。

【5月10日】

明仁◆「春の叙勲」で、皇居・宮殿「松の間」で行われた大綬章の「親授式」に出席し、旭日大綬章の上條清文・元東急電鉄社長や瑞宝大綬章の川島裕・元侍従長ら13人に、勲章を手渡す。

秋篠宮、紀子◆日本とイタリアの国交樹立150周年に当たり、祝賀式典などに臨席するため、羽田空港発の民間機でイタリアに出席ける。

「春の叙勲」◆安倍晋三首相が、皇居で行われた「大綬章親授式」に出席。午後、皇居での「重光章伝達式」に出席。

育鵬社教科書◆前年の大阪府教育委員会による育鵬社版中学校社会教科書の採択

過程で、育鵬社と教科書執筆に関わった日本教育再生機構が不正な働き掛けをしたとして、市民団体のメンバーらが公正取引委員会に対し、独禁法違反（不当な顧客誘引）容疑で育鵬社と機構への排除措置命令を出すよう申告したと発表。

オバマ広島訪問◆日米両政府が、オバマ大統領が27日、主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）に合わせて安倍晋三首相と共に広島を訪問すると正式発表。ロース大統領副補佐官が声明で、オバマ大統領の発言を引用し「米国には核兵器を使用した唯一の国として特別の責任がある」。オバマ大統領が原爆投下の是非に立ち返ることはないとし、謝罪を意図するものではないとの認識を強調。

【5月11日】

明仁、美智子◆東京都台東区にある東京国立博物館の平成館を訪れ、特別展「生誕150年 黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」を鑑賞。

秋篠宮、紀子◆イタリア・ローマの大統領府でマッテレッラ大統領らの歓迎を受け、日本とイタリアの国交樹立150周年の祝賀式典に出席。秋篠宮が「150周年を機に、裾野の広い両国の友好関係が未来に向けてますます広く深いものになることを願っている」とあいさつ。

【5月12日】

明仁、美智子◆東京都港区のグラランドハイアット東京を訪れ、テニス大会「軽井沢国際テニストーナメント」が100年目を迎えたことを祝う記念式典に出席。

徳仁、雅子◆東京都台東区の東京都美術

館を訪れ、江戸時代中期に京都で活躍した絵師伊藤若冲の生誕300年を記念した特別展「若冲展」を鑑賞。

秋篠宮、紀子◆日本とイタリアの国交樹立150年を祝うとして、ローマにある世界遺産の円形闘技場遺跡コロッセオで行われた「光のイベント」に出席。パチカンを訪れ、ローマ法王フランシスコを表敬。有田焼のつばなどをプレゼント。

ヘイトスピーチ◆特定の人種や民族への差別をおおるヘイトスピーチ（憎悪表現）を根絶するためとして、国や自治体に教育や啓発活動の充実を求める与党提出法案が、参院法務委員会で全会一致で可決。

【5月13日】

明仁、美智子◆東京都港区にあるサントリーホールを訪れ、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団によるコンサートの一部を鑑賞。

明仁、秋篠宮◆宮内庁が、明仁がハゼの分類をテーマに、秋篠宮ら共同研究者とともに執筆した論文が、遺伝子学に関するオランダの国際学術雑誌「ジーン（GENE）」の2月1日号に掲載されたと発表。

明仁◆皇居・御所でクウェートのジャビル首相と会見。宮内庁によると、明仁が「日本は世界でも自然災害が多い国の一つですが、クウェートはいかがですか」と質問し、ジャビル首相が「災害はほとんどありませんが暑さの問題があります」と答えると、明仁は「気候変動の影響はありますか」と尋ねたと報道。

彬子◆宮内庁が、故寛仁の長女彬子が、

客員研究員を務める学習院大国際研究教育機構の業務のため、20〜26日の日程でスペインと英国を訪問すると発表。

東宮大夫◆宮内庁東宮職のトップの東宮大夫に、元宮内庁式部官長の小田野展丈が就任することが閣議で決まる。

【5月15日】

オバマ広島訪問◆ライス米大統領補佐官（国家安全保障問題担当）が米CNNテレビのインタビューで、オバマ大統領の広島訪問について「興味深いことに日本は謝罪を求めているし、私たちはいかなる状況でも謝罪しない」と述べたと報道。

【5月16日】

秋篠宮、紀子◆イタリアのローマ日本人学校（水井麻雄校長）で、同校や地元の公立小学校の児童、生徒らと交流。帰国の途に就く。

三笠宮◆昭和天皇の弟で、前年12月に100歳を迎えた三笠宮が急性肺炎のため、東京都中央区の聖路加国際病院入院。

【5月17日】

明仁、美智子◆熊本県を19日に訪れることが決まり、閣議で報告される。

美智子◆東京都新宿区の東京オペラシティアンサンホールを訪れ、アルゼンチン出身で世界的ピアニストのマルタ・アルゲリッチが奏でるベートーベンの曲を鑑賞。

秋篠宮、紀子◆日本とイタリアの国交樹立150周年を記念する行事などに出席するためとして訪れていたイタリアから、羽田空港着の民間機で帰国。

東京五輪招致◆2020年東京五輪の招致委員会が国際陸連前会長の息子と関係があるとされるシンガポールの会社と2億円以上のコンサルタント契約を結び、不正が疑われている問題で、馳浩・文部科学相が閣議後の記者会見で、開催都市決定の投票権を持つ国際オリンピック委員会委員が当時「（東京電力福島第1原発事故の）汚染水の問題に懸念を持っているので、日本政府がどうしようとしているのか、回答を求めている」という情報があった」と述べ、ロビー活動には「より核心に触れる情報が必要だった」として、海外コンサルタントによる情報収集が不可欠だったと強調。

【5月18日】

明仁、美智子◆皇居・御所で、訪日したガーナのマハマ大統領夫妻と会見。これまで国家元首との会見後には宮殿で昼食会が催されていたが、新たな「公務」の軽減策により、今回から会見のみとなったと報道。

美智子◆東京都文京区のお茶の水女子大を訪れ、世界的に活躍する女性のリーダー育成を目的とした講演会「スペシャルタナレクチャー 21世紀の女性の生き方」の記念レセプションに出席。

【5月19日】

明仁、美智子◆熊本県を中心に相次いだ地震の被災者を見舞うためとして、日帰り同県を訪れ、被害が大きかった南阿蘇村と益城町の避難所を訪問。羽田発の特別機で熊本県入り。熊本空港で蒲島郁夫知事から被災状況の説明を受け、宮内

庁を通じて支援金を手渡した後、自衛隊ヘリで移動。村立南阿蘇中学校と町立益城中央小学校を訪問。西原村の村長から話を聴く。

徳仁、雅子◆東京・元赤坂の東宮御所で、ブータン王妃ツェリン・ヤンドン・ワンチュク前国王妃と現国王の妹であるデチェン・ヤンゾン・ワンチュクと会見。

在韓被爆者◆広島や長崎で被爆した韓国への支援などを定めた被爆者支援法案が韓国国会で可決され、同法が成立。被爆者対策を担う委員会を設立し、被爆者を登録し実態調査や医療支援、追悼事業を行うと定めており、医療支援は日本の被爆者健康手帳を持ち医療費を受給している人は除外されると報道。

オバマ広島訪問◆ローズ米大統領副補佐官が、オバマ大統領が広島を訪問する際、核兵器を使用した唯一の国として、核廃絶に向けた「道義的責任」があると言及し、原爆投下により「広島、長崎で失われた多くの命」を追悼すると明らかに。／韓国の被爆者でつくる「韓国原爆被害者協会」が、オバマ大統領の27日の広島訪問を前に、原爆投下への謝罪と賠償を求めるオバマ大統領宛ての手紙の内容を明らかに。日本に徴用された多くの朝鮮半島出身者が犠牲になったとして日本政府の謝罪も求める内容と報道。／日本原水爆被害者団体協議会（被団協）の田中照巳・事務局長が東京都内の日本記者クラブで記者会見し「被害が今も続いている被爆者の話を聞き、核廃絶へのステップを踏んでほしい」。

サミット警備◆防衛省制服組トップの河野克俊・統合幕僚長が記者会見で、伊勢志摩サミットで自衛隊が行う警戒監視などの活動に関し「世界的にテロの脅威が高まっている中で行われる。不測の事態に対応できるよう万全の準備を整えた」。自衛隊は、F15戦闘機や空中警戒管制機、護衛艦などを会場周辺の海空域に展開させ、警戒監視に当たるほか、「テロ対処」の専門部隊も待機し、各国要人のヘリコプター輸送なども担うと報道。／

【5月22日】

オバマ広島訪問◆オバマ米大統領が現職として初めて被爆地の広島を27日に訪問するのを前に、共同通信が広島、長崎で被爆した115人に実施した面接方式のアンケートで、原爆投下の是非に踏み込み謝罪することを78・3%が「求めない」と回答し、「求める」とした人は15・7%にとどまったと報道。

【5月23日】

三笠宮◆宮内庁の山本信一郎次長が記者会見で、急性肺炎のために16日から入院している昭和天皇の弟の三笠宮について「先週中ごろから平熱に戻り、せきの症状もなくなった。快方に向かっている」。

【5月20日】

明仁、美智子◆皇居・御所で、プータンのツェリン・ヤンドン・ワンチュク前国王妃と、娘で現国王の妹デチュエン・ヤンゾン・ワンチュクと会見。

愛子◆宮内庁の小田野展丈・東宮大夫が記者会見し、学習院女子中等科3年の愛子が当月、修学旅行で広島市中区の平和記念公園を初めて訪れたと明らかに。

彬子◆故寛仁の長女彬子が、客員研究員を務める学習院大国際研究教育機構の業務のため、スペインと英国に出掛ける。

【5月21日】

秋篠宮 紀子、眞子、悠仁◆悠仁が、通っているお茶の水女子大付属小（東京都文京区）の運動会に出場。会場の校庭で紀子と姉の眞子が観戦。秋篠宮は「公務」

御養蚕所」で、蚕に餌の桑の葉を与える「給桑」と呼ばれる作業をする。

ヘイトスピーチ◆特定の人種や民族への差別をあらわすヘイトスピーチ（憎悪表現）をなくすための対策法が成立。憲法が保障する表現の自由を侵害する恐れがあるとして、禁止規定や罰則はないと報道。

在沖米軍事件◆中谷元・防衛相が記者会見で、元米海兵隊員の軍属が逮捕された女性遺棄事件を踏まえた日米地位協定の見直しに否定的な見解を示す。

【5月25日】

明仁◆皇居内の生物学研究所脇にある水田で、恒例の田植えをする。

【5月26日】

彬子◆客員研究員を務める学習院大国際研究教育機構の業務のためとして、20日からスペインと英国を歴訪していた故寛仁の長女彬子が、羽田空港着の民間機で帰国。

【5月26日】

伊勢神宮訪問◆先進7カ国首脳による伊勢神宮（三重県伊勢市）訪問に関し、日本政府は「各国首脳に日本の自然や伝統文化を感じてもらうのが趣旨で、宗教的目的はない」（外務省幹部）として、憲法の政教分離原則には反しないと説明していると報道。首脳らは伊勢神宮で、神道の作法である「二拝二拍手一拝」は行わず「自由に見学」したとみられ、共産党の小池晃・書記局長は「宗教の利用とはいえない」との見解を示す。

伊勢志摩サミット◆主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）が開幕。

【5月27日】

美智子◆東京都中央区の東京銀座画廊・美術館を訪れ、手足や体の不自由な人々が暮らす養護施設「ねむの木学園」（静岡県掛川市）が催している展覧会「ねむの木学園のこどもたちとまり子美術展」を鑑賞。

オバマ広島訪問◆オバマ米大統領が、被爆地・広島を平和記念公園を訪れ、原爆慰霊碑に献花、黙とう。

日米関係◆オバマ米大統領が、広島訪問に先立ち米軍岩国基地（山口県岩国市）に立ち寄る。

伊勢志摩サミット◆サミットが閉幕。

【5月28日】

オバマ広島訪問◆韓国各紙が、オバマ米大統領が広島訪問時に韓国人原爆犠牲者慰霊碑を訪れたことが、このへの不満を一斉に伝えたと報道。

【5月29日】

改憲◆共同通信社が28、29両日に実施した全国電話世論調査によると、安倍晋三首相の下での憲法「改正」に反対は54・9%、賛成は35・0%だったと報道。

オバマ広島訪問◆共同通信社が28、29両日に実施した全国電話世論調査によると、オバマ米大統領の広島訪問について「よかった」との回答は98・0%に達し、オバマ大統領が広島訪問で「謝罪すべきだった」は18・3%だった一方、「謝罪する必要はなかった」が74・7%。

【5月30日】

美智子◆皇居内の紅葉山御養蚕所で、わらなど編んだ「蓑」と呼ばれる網に成

長した蚕を移し、繭作りを促す「上族」の作業をする。

常陸宮夫妻◆東京都千代田区の千鳥ヶ淵戦没者墓苑で、第2次大戦中に海外などで死去した身元不明の戦没者を慰霊する厚生労働省主催の拝礼式が開かれ、常陸



講演会「心は支配されたくない」報告

.....

先の五月二七日に安倍靖国参拝違憲訴訟の会・東京主催の講演会「心は支配されたくない」が開かれた。最初の講師、小林緑さんの近年の研究テーマは、女性の作曲家を掘り起こすこと。一八から一九世紀はクラシックの有名な作曲家を輩出した時代であるが、教科書に載る名前は男性ばかり。女性の作曲家はいなかったのではなく、「女性であるという理由だけで歴史の表舞台に出ることがなかった。ロネイが「音楽史はどれほどの嘘と省略で成り立っているか」と語った通りで、それら男性社会の中に埋もれてしまった作品を掘り起こすと、素晴らし

い作品と出会うという。常識と言われているものにも、数限りない嘘があり、かつての戦時下の時代も、音楽は戦争遂行の道具であり、作曲家も作詞家も当然のごとく国策に利用された。信時潔（海ゆかば）の作者）作曲・北原白秋作詞の

宮夫妻が参列。

千鳥ヶ淵墓苑拝礼式◆第2次大戦中に海外などで死去した身元不明の戦没者を慰霊する厚生労働省主催の拝礼式が、東京都千代田区の千鳥ヶ淵戦没者墓苑で開かれる。当年は新たに遺骨2337柱を納

カンタータ「海道東征」は、そんな音楽の代表的なもの。神武天皇が海道を切り分け進出するのを歌ったもので、皇紀二六〇〇年奉祝のために国の依頼によって作られた壮大なカンタータ。満州進出にても歌われたいわくつきの曲。その曲が長年の封印を解かれるごとく昨年に演奏され始めた。産経新聞社主催によって大阪で演奏され、東京でも東京芸術大学で演奏された。大勢の音楽家や音大生も過去の経緯を知らずこの曲を歓迎している。歌は命令されない。命令されては歌えない。幸せでなければ歌えない。歴史の中に埋もれた女性作者の音楽を掘り起こすことによって、この時代に抵抗したい、と語られた。

もう一人の講師は根津公子さん。元家庭科中学教諭、君が代不起立職務命令違反処分を数限りなく受けながら戦った。教員となろうとした原点は、朝鮮半島、中国侵略の歴史を知り、戦争に行った父の子として戦争責任を自分も背負っていること、このことを子供たちに伝えて国が行う犯罪に加担しない生徒を育てたいと思ったこと。一九八九年の学習指導要領に「指導するものとする」と書かれてから、全国国旗国歌実施が進められた。

骨、これまでに納められた遺骨と合わせると36万4896柱になると報道。

【5月31日】

明仁、美智子◆東京都小金井市を訪れ、明仁が終戦間もない46年5月から約3年半にわたり暮らした「御仮寓所」や、そ

一九九四年に実施しない学校は二校となり、石川中の生徒も日の丸掲揚に抵抗した。校長は「たとえ全校生徒が反対しても自分は命令に従う。」と断言。この経緯から生徒たちは、学校が何を守ろうとしているのかを見抜いて行き、自分たちの学校は自分で創るという自主的な機運が生まれていく。転任した学校は、性の風紀が乱れた地域。人間の尊さを教えるため従軍慰安婦の歴史と性の商品化のことを授業した。以後、校長や教育委員会の根津攻撃は激化したが、沈黙せず闘い続けると、生徒たちは問題の本質を理解するようになっていた。「なぜ都教委は根津先生にこんなことをするのか？」と問い、何が正しいのかを自分の頭で考え、「これでは戦争中と同じです」と行動している。

近年の学校は、ますます戦時下のようになり、日の丸君が代強制は強化され、先生たちは委縮してマニュアルに縛られている。生徒たちも戦時下のように様々な行事に動員され始めている。しかし学校の外からでも戦い続けたいと根津さんは力強く語られた。

（安倍靖国参拝違憲訴訟・東京 原告事務局／星出卓也）

の頃に通っていた学習院中等科の跡地に当たる都立小金井公園を見て回る。

徳仁◆東京・上野の上野学園石橋メモリアルホールを訪れ、国内外のビオラ奏者によるコンサート「ヴィオラスパース2016」を鑑賞。



5月13日（金）●連続講座・ドイツの戦後70年―その現実と歴史認識「ドイツの敗戦―追放と引揚げ」

5月14日（土）●科学技術と核・軍事体制を問う

5月15日（日）来んなG7 つくばから地球から出ていけ！ デモ

5月19日（木）●総掛かり行動

5月21日（土）●国の暴力を許さない！ じすたんす大行動

●東アジア反日武装戦線と私たちの来た道、行く道 虹の彼方へ

●原発労働者は要求する！春闘集会

5月22日（日）●伊勢志摩サミット反対！新宿デモ

5月27日（金）●「心は支配されたくない」（集会報告参照）

5月29日（日）●第29回立川反基地駅伝大会



6月11日（土）●シンポジウム 戦後レ

ジームと憲法平和主義

13時開場／武藤一羊・花崎皋平・李泳采・

反天連学習会

天野恵一「マスコミにかけの天皇制」

(インパクト出版会、一九九〇年)

今回のテキストに収められた諸論文は、反天皇制運動連絡会の活動の中でも、とんでもなく慌しかった「Xデー」前後の二年間、八八年の初めから八九年末にかけて書かれたものばかりである。八七年の裕仁の沖縄訪問予定が流れ、政府と宮内庁の情報隠蔽の陰からも、裕仁の重病を明らかにうかがわせる情報が伝わり、「Xデー状況」が政治の前面に躍ることになった時期だ。

この時期、天野は反天連第一期のニュースと日本基督教団の靖国・天皇制

情報センター通信に、合わせてほぼ月に三回の連載を書き、インパクション・新地平・クライシスなどの雑誌にも天皇制に関する原稿を多数書いていた。この本は、それらを集めたものであり、したがってこの時期の天皇制に関するクロニクルという性格のものとなっていることで、唯一無二のものといえるだろう。

書かれているテーマを拾うだけでも、一つひとつが再考に値する、現在もなおアクチュアルなものだ。たぶん著者も含めて忘れかけているだろうこれらを、あ

らためて記憶喚起しておくことは、近い将来に訪れるはずの明仁「平成」のXデーについて考えるためにも重要だ。

裕仁の重体が顕わになって国家とメディアによって演出された「自粛」を、天野は全社会的な「天皇儀礼」として掘みだす。この天皇儀礼は、「非政治」的な政治の貫徹であり、「非宗教」的な宗教行為として、国家神道を否定し政教分離を実現したはずの戦後国家を席巻したのだ。そして裕仁の死後、即位・大嘗祭といった天皇制の儀式が、日本国憲法のもとで、当然のように国家儀礼、政治行為として解釈され、その根拠も疑わしいものが詐術により麗々しく権威づけられて登場したのである。さらに、明仁による「護憲」発言はいまなお価値づけされ、

決して天皇主義者ではないはずの知識人たちの足元を危ういものとしている。その具体的な形相を、この時期の歴史事実や人々の発言とともに、捉えかえしておかなければならない。いまの私たちの「民主主義」についてのスタンスも、この時期に、天野を含む各地の反天皇制の活動家たちとともに組み立てられたものだ。この本を三十年ぶりに再読するとき、かなり危うく古い内容になっていないかと心配でもあった。読み直してみても(留保はあるが)内容面ではそんなことはない、と言っていると思う。これは収穫だった。

次回テキストは菅孝行編著「Xデーがやってくる」(柘植書房)。六月二十八日七時から。(編輯)

大井赤亥・加納実紀代・新城郁夫ほか

／18時〜懇親会／成蹊大学6号館(ＪＲ吉祥寺駅)／主催：同大学アジア太平洋研究センターほか(0422-37-3549)

●教育への自衛隊の介入と安保法制を許さない首都圏集会

18時30分〜／千駄ヶ谷区民会館(ＪＲ原宿駅ほか)／主催：同実行委(090-7015-3344 永井ほか)

6月12日(日) 練馬駐屯地撤去デモ

13時集合・14時デモ出発／徳丸第二公園(東武東上線東武練馬北口)／主催：反安保・反自衛隊・反基地闘争を闘う東京北部実行委員会ほか(03-3361-0212 北部労法センター)

●第23回統一マダン東京

16時〜／李政美コンサートほか／日暮里駅前イベント広場／主催：同実行委員会(03-3362-6881)

6月15日(水) ●女性と天皇制研究会連続講座「フェミニズムが天皇制を批判するために」

19時〜／斎藤塩子／文京区民センター(地下鉄春日駅・後楽園駅)／主催：女性と天皇制研究会(jotenken@yahoo.co.jp)

6月19日(土) ●怒りと悲しみの沖縄県民大会に呼応するいのちと平和のための6・19大行動

14時〜／国会正門前(地下鉄国会議事

堂前駅ほか)／共催：戦争させない・9

条壊すな！総がかり行動実行委員会／「止めよう辺野古埋め立て」国会包囲行動実行委員会(090-3910-1140 沖縄・一坪反戦地主会関東ブロックほか)

7月2日(土) ●第Ⅹ期から第Ⅹ期へ反天連討論集会 どうなる!? どうする!?

天皇制と反天皇制運動の現在

14時〜／伊藤晃・井上森・天野恵一／ピープルズ・プラン研究所(地下鉄江戸川橋駅)／主催：反天連



●第Ⅹ期0号！ 最新号はこれだ！ どう

です？ いろいろ大変なスタートだったけど、なんとかなったか。(木寛)

●凄いな！反天連Ⅹ期なんて。「継続は力なり」か？ あちらの力に押されぎみの状況に、「いつしたもんじゃろな」(鰐)

●実行委報告と新アラートの作業が併行して行ったり来たり。機材を複数に強化しても作業者が増えていないからダメだね。(編輯)

●PP研の「吉川勇一パンフレット」づくりの作業と併行しての作業。二つの事務所を行ったり来たりだったが、徐々に楽しかった。(熊)

●0号は8ページだからすぐ終わるだろうと思ったり……。まとめていくつも作超をするのは無理があったか。(鰐)